

# 札内川上流地域における日高変成帯上部層の変形史

Deformation history of the upper sequence of the Hidaka metamorphic belt in the upper reaches of Satsunai-gawa river.Hokkaido

# 小安 孝幸[1]; 豊島 剛志[2]; 高橋 浩[3]

# Takayuki Koyasu[1]; Tsuyoshi Toyoshima[2]; Yutaka Takahashi[3]

[1] 新大・理・地質科学; [2] 新潟大学・大学院自然科学; [3] 産総研・地球科学(地調)

[1] Department of Geology,Sci,Niigata Univ; [2] Grad. Sch. Sci. & Tech., Niigata Univ.; [3] Geological Survey of Japan, AIST

北海道札内川上流地域には、白亜紀末～古第三紀初期付加帯の中の川層群(岡村・木村,1989;七山・雁沢,1997)を原岩とする、日高変成帯上部層の砂質・泥質変成岩類が分布する。多種多様な変形構造・組織の解析の結果、以下のような変形史を編むことができた。

本地域日高変成帯上部層の変形史はD0～D7ステージの8つに区分される。D0ステージは堆積岩形成期で、層理面などの堆積構造が形成された。続くD1ステージに最初の変形構造として片理S1が形成された。この時、変成作用による黒雲母などの再結晶作用が始まっており、黒雲母などの配列により片理面S1が形成された。次のD2ステージには片理面S1を切って石英長石質の雁行脈が形成された。ついで、D3ステージには、層に垂直な短縮が起こり、D2脈の褶曲と片理面S3が形成された。このときの変形によって、西側(片麻岩側)ほど、片理面と脈との斜交性が小さくなっているため、変成度の高い側(深部)ほど短縮量が大きかったと考えられる。D4ステージにはトータル岩が貫入し、堇青石の斑状変晶が形成された。トータル岩の少なくとも一部は、左横ずれ剪断帯の形成を伴いつつそれに沿って貫入している。トータル岩貫入後のD5ステージにはマイロナイト化作用を伴う右ずれ剪断が起こり、D6ステージには左ずれ剪断が起こった。D5・D6剪断帯には、場所によって、分布密度・姿勢に若干の違いが認められる。また、D4～D5ステージの間でアクチノ閃石斑状変晶が、D5～D6ステージの間で白雲母斑状変晶がそれぞれ形成された時期がある。その後、シュードタキライトを伴う剪断がおこった。